

第4回倫理委員会会議の記録の概要

1. 日 時 平成21年12月24日(木) 16:00～
2. 場 所 国立病院機構千葉医療センター 第2管理棟3階 第2院長室
3. 出席者 (院内委員) 杉浦副院長(委員長)、石毛統括診療部長
沼田臨床研究部長、阿藤事務部長、浅野看護部長
田澤外科医長、赤羽研究検査科長
(外部委員) 御園生委員、渡辺委員

4. 議 題

- 1) HIV 感染者における新型インフルエンザワクチンの有効性に関する検討試験
【消化器科 医長 金田 暁】

新型インフルエンザワクチン接種前後の抗体価(赤血球凝集阻止;HI 法)を測定し、新型インフルエンザワクチンの効果を検討する。千葉大学医学部感染管理部を中心とした千葉県内の多施設共同研究で、HIV 感染者のインフルエンザワクチンに対する効果を知る上で非常に有用であると考え、当院も比較的患者数が多いことから協力したいと考えている。

※上記について審議し特に問題なく承認された。

- 2) B 型肝炎ジェノタイプ A 型感染慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究
【内科 副院長 杉浦 信之】

B型肝炎ウイルスは8つの genotype に分類され、地理的分布が異なること、臨床像の違いがあることが明らかになった。本邦では B 型、C 型が多数を占めていたが、近年欧米型である A 型が増加傾向にある。本邦における感染は水平感染が多く、母子感染は制圧されつつあるが、慢性化する欧米型の水平感染の増加が今後問題となる。そこで、今回、全国規模でジェノタイプ A の感染状況を前向き、後ろ向き研究で調査しその実態を明らかにする。

この研究は平成21年度厚生労働省科研費肝炎等克服緊急対策研究事業 B 型肝炎ジェノタイプ A 型感染慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究の一環として行われる。千葉大学大学院医学研究院の今関准教授が上記研究の分担研究者となり、当院は今関教授の依頼によりこの研究に協力する。

※上記について審議し特に問題なく承認となった。

- 3) 宗教上の理由による輸血拒否の対応について
【内科 副院長 杉浦 信之】

患者の権利やインフォームド・コンセントの概念が広まったことにより、医療側が輸血を一方向的に強制するような事例は少なくなってきた。しかし、医療現場では、特に未成年者の問題について、どのように対応するかということについて混乱が見られる現状もある。当院においては、「エホバの証人」の主張、行動について対応指針輸血実施マニュアルにあるが、輸血の可能性が低い観血的処置における場合の対応を含め検討する。

※上記について審議し特に問題なく承認となった。